

平成28年度(2016～2017) 事業報告

平成28年4月1日 ～ 平成29年3月31日

1. アイメイトの育成訓練及び研究開発

(イ)【候補犬の訓練】

	訓練内容	適要
1 ヵ 月	性格・素質判定と健康管理	◇ 性格並びに素質を観察 ◇ 健康診断の後、健康上問題のない適性犬は、避妊或いは去勢手術・各種ワクチンを接種。
4 ～ 5 ヵ 月	基礎訓練	アイメイトとして必要な課目を教え、服従心と学習への態度の基礎を作る。
	誘導訓練	ハーネスを付け盲人の歩行時の、障害となるもの、又は危険な物を告知し、或は回避する訓練
	仕上げ及びテスト	指導員が目隠しをして、訓練の完全度をテストする。
4 週 間	歩行指導	アイメイト使用を希望する視覚障害者4名1クラスを原則に、宿泊により指導する。

(ロ)【種犬の充実と候補犬の質の向上】

候補犬の資質がアイメイトの実績に大きく関わるので、繁殖犬の選定・組み合わせを考慮した交配をおこなった。また8月には種牡としてThe Seeing Eyeよりアバターを分けてもらった。

2. アイメイトによる盲人の歩行指導並びに日常生活指導

(イ)【調査】

アイメイト使用希望者に対しては、アイメイトによる歩行指導の可否を判断するため面接調査を実施した。また、使用希望者の質疑に答えたり、実際にアイメイトとの歩行体験をさせたりする事により、安心感を持たせることに努めた。

ペットではないことを理解し、共生して生活することが可能な人であるかを判定する事を基本に据えて実施した。

(ロ) 【歩行指導実施結果】

回数	期	人数	期 間
1	440	3	' 16. 04. 02 ～ ' 16. 04. 30
2	441	4	' 16. 05. 07 ～ ' 16. 06. 04
3	442	2	' 16. 06. 11 ～ ' 16. 07. 09
4	443	4	' 16. 09. 03 ～ ' 16. 10. 01
5	444	4	' 16. 10. 08 ～ ' 16. 11. 05
6	445	4	' 16. 11. 12 ～ ' 16. 12. 10
7	446	4	' 17. 1. 07 ～ ' 17. 2. 04
8	447	3	' 17. 2. 18 ～ ' 17. 3. 18
計		28	

(ハ) 【歩行指導内容】

入 校 (土曜日)		
視覚障害者への	盲人の歩行状態テスト 性 格 観 察	チェーンカラー・引き紐・ハーネスの扱い方、 指導員によるハーネス歩行
	ペ ア 決 定	
	各人の犬を決定し、パートナーを作るが犬と人の性格の一致が重要である。	指示語、誉め方・叱り方と意義・ハーネスの付け方 等
	歩行指導 (土曜日から4週間)	
歩行指導	歩行指導開始、各週毎に定められたコースを歩く 第一週： 毎日1.6 ～ 3.2km 第二週： " 2.1 ～ 4.2km 第三週： " 3.4 ～ 6.8km 第四週： " 4.8 ～ 9.6km 全体で約 120km の行程をマスターする。 各週末にテストを行い、進捗状況をチェックする。	歩き方の基本及び姿勢、コーナーの練習、 服従、分岐点、人車道の区別、 歩道橋、信号判断の方法、人車道の区別のない道の歩行、ガードレール内の歩行、繁華街、レストラン、エスカレーター、エレベーター、踏切、電車や自動車の利用法、排便の始末、犬のシャンプー、ブラッシング、犬の餌の作り方、体重測定 等
講義内容	犬の管理及び衛生	飼料/内容・作り方・与え方 等 手入れ法/ブラッシング・シャンプー・耳掃除等・犬の歯磨き 等 犬の管理/ 正常、異常の区別、体重測定、投薬、検温、便の始末 等
	アイメイトの使用法	アイメイトの歴史・訓練・指示語・犬の心理及び表情 等。 社会との対応の仕方・アイメイトを使う側のマナー
上記の他にこの期間中、健常者と変わらない状態で生活するように(夜間の点燈、スマートな食事の方法等)指導する。		

(ニ) 【フォロー・アップ・サービス】

アイメイトによる歩行指導は、視覚障害者の自立と生活の向上を最終目標としている。

卒業生からの質問内容によっては遠近に関わらず訪問指導を行い、卒業生の目としてアイメイトが十分に機能することを目指した。

3. 生活に関する各種相談及び歩行指導員の養成

(イ) 各種相談

使用者のあらゆる相談にも応じ、様々の指導をおこなった。

使用者の犬具の整備、飼育・歩行及び管理に就いての相談や指導、本人の病気など特別な事情の場合の犬の預かり、止むを得ぬ事由の返還犬の飼育、死亡犬の供養、使用者の就職、結婚或いは離婚、住宅問題、公共施設の利用・宿泊問題 等にも誠意を以て対応した。

(ロ) 指導員の養成

歩行指導員は現在4名、

既存の研修生3名とH28年度採用決定の2名には、アイメイト協会の精神を理解した、有能で柔軟な思考ができる指導員に育てるように努めた。

4. アイメイトに関する啓発

(イ) 【啓 発】

アイメイトを使用する環境の整備と向上の為に、一般社会への啓発運動として毎月最終土曜日を見学日（1月を除き11回）として体験歩行も取り入れて実施した。

企業からの依頼や学校・社協・ロータリークラブ、ライオンズクラブ、ガールスカウト、ボーイスカウト等の要請にも可能な限り応じ、マスコミ・出版関係にも協力して啓発の促進を計った。

(ロ) 【広報活動】

アイメイトの理解に役立つ機関誌『アイメイト 48号』の発刊、その他広報活動を広げ、アイメイトへの理解者及び協力者の拡充を図るように努力した。

ホームページも適宜更新し、人に視点を置いた正しい情報を提供してゆく。協会で作成したDVDも貸し出し或いは頒布し、アイメイト協会の全体像・ポリシーを広めることに努めた。

(ハ) 【アイメイト・デー】

第40回アイメイト・デーを実施。

社会的にアイメイトに対する認識の向上と理解をアピールできる機会と捉え、中身の充実

したアイメイト・デーを10月23日(日)にTKPガーデンシティ竹橋を会場に実施、小池都知事も参加した。

5. その他、目的達成に必要な諸事業

(イ) 【当協会の同窓会・後援会・飼育奉仕・繁殖奉仕者・サポート会の充実】

卒業生の集まりである同窓会の隔月開催の理事会、総会・レクレーション・録音通信「ひろば(年4回)」の作成等、できる限り協力して実施した。

後援会はミニ通信発行や募金活動、チャリティーコンサート、チャリティー・グッズの頒布等を企画・実施した。

飼育奉仕家庭(リタイア犬飼育を含む)及び繁殖奉仕家庭からの相談等にも、積極的に応じた。その際には繁殖奉仕者・飼育奉仕者及びリタイア犬の飼育者へ感謝の意を伝えた。

サポート会員も層を広げるように努めた。

(ロ) 【海外の盲導犬育成施設との交流】

昨年I. G. D. F. のアセッサー再来会以降、犬の訓練法に対する見解の相違を押し付けて来た。それに応じることはアイメイトのレベル低下を招くので7月に退会した。

しかしシーイングアイとは引き続き交流を持っている。